

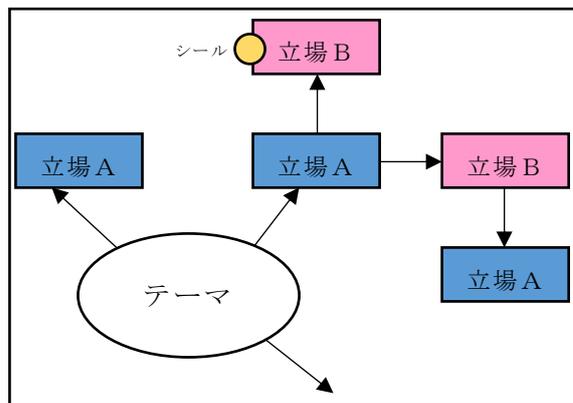
実践記録（小4・総合的な学習の時間）

1 ねらい

付箋紙を使い、対話的な学びとしての意見交流を行うことによって、新たな意見を自分の考えに取り入れ、自分の考えを深めることができるようにする。

2 手立て

付箋紙を使って交流を行う。初めに自分の立場を決め、立場によって使う付箋紙の色を変える。話し合いが付箋紙のみ、あるいは言葉のみにならないよう、「付箋紙に意見を書く→読み上げてシンキングツールに貼る→言葉で話し合う」を一巡として行い、教師の合図で次の一巡に移るようにする。また、意見交流の流れが分かるよう、意見同士を矢印で結ばせる。意見交流後は、貼られた付箋紙の中から自分が納得できたものにシールを貼り、その意見を参考にして、最終的な自分の考えをまとめる。

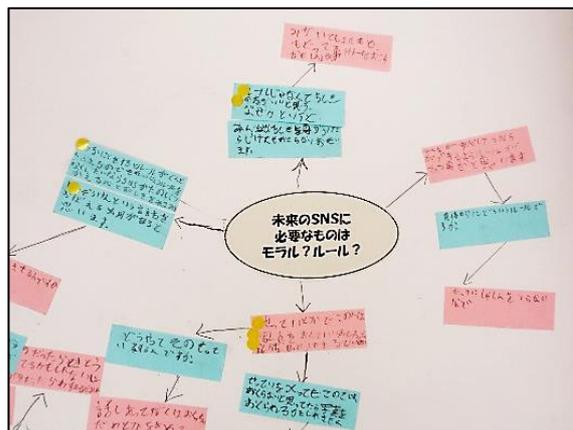


【付箋紙を使った交流のイメージ】

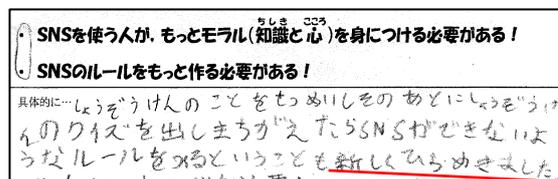
3 実践の様子

SNSからトラブルをなくすためには、「利用者がモラルを身に付ける必要がある」、「ルールを作る必要がある」という立場に分かれて意見交流を行った。「モラルが必要」の立場は青、「ルールが必要」の立場は赤の付箋紙を用いた。

意見交流では、「肖像権のことをみんなが知ればいいと思います」→「どのように知らせるのですか」→「SNSを始めるときに説明を見せればいいと思います」→「無視する人もいます」といいます」→「SNSを始め前に肖像権についてクイズを出し、間違えたらできないようにすればいいと思います」というように、考えの変容が見られる場面があった。一方、「賛成」とだけ書かれた付箋紙が貼られ、あまり進展しない場面もあった。



【交流を行った後のシンキングツール】



【考えの変容が見られた子どもの記述】

4 成果と課題

- 付箋紙を使って話し合いを行ったことで、話し合いの流れを可視化することができた。また、話し合いの後で何が重要な意見だったかを振り返ることが容易になった。
- 話し合いの後に、出された意見から納得できるものを探す活動を、もっと丁寧に行うべきであった。なぜ納得できたかということを考えさせることで、他者の意見も必要であると考えることができる子どもが増えたと思われる。